

事務事業名	健康推進員活動事業				担当	健康福祉部 健康増進課 成人健康係		
政策名	C	思いやりと安心に満ちたみんな元気なまちづくり			電話番号	0285-83-8122		
施策名	6	健康づくりの推進			☐ 実施計画上の主要事業			
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略				事業期間	☐ 単年度のみ		
法令根拠	真岡市健康推進員設置要綱					☒ 単年度繰返（開始年度 平成14 年度～）		
予算科目	1. 一般会計	4. 衛生費	1保健衛生費	3保健指導費		☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	・平成14年度より市民の健康の保持増進を図ることを目的として、地域での健康づくりを推進するために設置。 ・区長の推薦で、市長が委嘱する。推進員は、区を単位とし1名を置く。ただし、500世帯を超える区については、複数の推進員を置く。任期3年。 ・研修会年3回実施 活動内容：地区での健康づくり事業の推進（健康講話・調理教室・運動教室等）・市の保健事業（講演会・健康フェスティバル・健康教室・生活習慣病健診等）への参加や地域住民に対して保健事業への参加を勧奨する。							

1. 現状把握の部 （1）事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動） 28年度実績 ・健康推進員研修会の開催・地区での健康づくり事業の推進支援・市の保健事業（生活習慣病予防講演会等）への参加に対する事務連絡・報償金の支払い事務 29年度計画 ・平成28年度で第5期真岡市健康推進員が任期満了となるため、平成29年度は改選となる。任期は平成29年度～平成31年度。 ・活動内容は、平成28年度と同様。			⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
			名称		単位	25 年度(実績)	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(見込)
			ア 健康推進員研修会開催回数		回	3	3	3	3	3
			イ 区の数		区	134	134	134	134	134
			ウ							
			エ							
			オ							
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 健康推進員			⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
			名称		単位	25 年度(実績)	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(見込)
			ア 健康推進員数		人	155	155	155	155	155
			イ							
			ウ							
			エ							
			オ							
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 市民の健康の保持増進を図るため、健康推進員の活動を支援する。			⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
			名称		単位	25 年度(実績)	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(見込)
			ア 健康講話実施区数		区	54	62	69	62	65
			イ 栄養教室実施区数		区	44	48	41	44	45
			ウ 運動教室実施区数		区	76	74	62	68	70
			エ 定期的活動実施区数		区	40	38	49	42	45
			オ 健康づくりに関するチラシ等回覧区		区	115	115	99	117	120
④ 結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 健康な状態で生涯を暮らしてもらう。			⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
			名称		単位	25 年度(実績)	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(見込)
			ア 健康づくり事業に取り組んだ区の割合		%	86.6	86.6	78.4	87.3	89.6
			イ							
			ウ							
			エ							
			オ							
(2) 総事業費の推移										
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
			県支出金	千円	0	0	0	0	0	
			地方債	千円	0	0	0	0	0	
			その他	千円	0	0	0	0	0	
			一般財源	千円	900	750	900	838	900	
			事業費計（A）	千円	900	750	900	838	900	
	人件費		正規職員従事人数	人	6	6	6	6	6	
			延べ業務時間	時間	222	222	222	222	222	
			人件費計（B）	千円	902	937	930	922	922	
			トータルコスト(A)+(B)	千円	1,802	1,687	1,830	1,760	1,822	
(3) 事務事業の環境変化・市民意見等										
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか。		従来の保健委員制度が廃止され、各地区での健康づくりを推進するために開始した。								
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは 5 年前と比べてどう変わったのか？		・健康推進員設置要綱により真岡市全地区に健康推進員が設置され、地区役員とともに健康づくり事業を実施している。 ・健康推進員の意識が高まり、地区活動が活発になってきた。参加者数も年々増加している。 ・年間を通じて定期的に活動する地区や、健康づくりに関するチラシ等を配布回覧する地区が増加してきた。								
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？		健康推進員：地域の人々の健康に対する関心が高まり、公民館事業への参加者が多くなった。								

2. 1 次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか？	☒ 結びついている ☐ 見直し余地がある 各地区での健康づくりが実施され、市民の健康の保持増進が図られることは市の政策に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	☒ 妥当である ☐ 見直し余地がある 市民の健康の保持増進は市の基本理念に結びつくので妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	☒ 適切である ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある 各地区に健康推進員を設置しており、適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地はない ☐ 向上余地がある 健康推進員研修会を定期的に開催すると共に、地区活動時の相談・支援をしているので、向上の余地はない。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☒ 影響がある ☐ 影響がない 廃止・休止した場合は地域の健康づくりに支障がでる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	☐ 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） ☒ 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	☐ 他の事業と統合・連携ができる ☐ 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ （仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 必要最小限の事業費で実施しているので、削減はできない。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか （アウトソーシングなど）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 必要最小限の人件費で実施しているので、削減はできない。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	☒ 公正・公平である ☐ 見直し余地がある 全区が対象であるので、公平公正である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） ☐ 廃止 ☐ 見直し（ ☐ ：目的妥当性 ☐ ：有効性 ☐ ：効率性 ☐ ：公平性） ☐ 統合 ☒ 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の 2 次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1 次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足（説明責任不充分） ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
			コスト																						
			削減	維持	増加																				
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
(2) 2 次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																									
(3) 2 次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☐ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(4) その他 2 次評価会議で指摘された事項																								